

領域	6年間のゴール(ねらい)	年間目標〔平成31年度〕	活動	活動の評価		%	年間目標の評価	次年度の目標	
				点数	理由				
共同体作り	一人ひとりが神様から愛されているかけがえない存在であることを感じられるようになる	考え方や個性の違いを認め合えるようになる。	お友達の気持ちを考えることができる。	年長	3	特別な支援が必要な子に対して、他児が気持ちよく寄り添う姿が見られた。	60	お友だちの苦手なこと得意なことを理解し助け合うことがあった。	お友だちの思いを受け止め受け入れることができる
				年中	3	『できなかったことができるようになった。』お互いを認めることができるようになってきた。	65	本人の苦手なこと支援の必要ないことに肯定的な言葉かけで認めることができた。	
				年少			70	お友だちの気持ちも理解できるが、自分の気持ちを通そうとしてしまう。	
宗教・精神的	子どもたちが自主的に祈り自分と他者を大切にすることができるような宗教教育の充実を図る。	子どもたち一人一人がおともだちの気持ちに気づき、自主的に寄り添う。	お友達一人一人に関心を持ち関わる。	年長	4	グループに入れないでいる子や、泣いている子に声掛けをする姿が見られた。	70	周りの状況に気好いていても自分のことを優先してしまいがちだった。	神様の存在を身近に感じて自主的に祈りする。
				年中	3	挨拶をしたり、楽しく話をしたりするが、かかわりを深めることは個人差がある。	80	相手が困っていると感じていることを手を差し伸べ援助することができた。	
				年少	2	どんどんお友達を作れる子、自分から声掛けができない子個人差があるが、周りが気になってきていることは確実。	55	お友達に寄り添う姿が見られたが自分の気持ちを押し付けて、トラブルになることがあった。	
文化・教育	職員はドンボスコの予防教育法を実践できるようになる。	ドン・ボスコの教育法の一つ「道理」を生きる	子どもが納得できるように話す。	年長	5	時間をかけて寄り添い、納得できるように話すことができた。	70	子どもにわかるように伝えられるよう考えながら保育にあたった。	ドン・ボスコの教育法の一つ『道理』を大切に保育を行う。
				年中	3	子どもに納得してもらえるように話しているが難しい。保育者の思いを伝えることで終わることがある。	60	ルールに輪守らなければならない理由があることを伝えてきたが保育者がいないところでは守れないこともあった。	
				年少	3	納得できる子、できない子それぞれであるが、祈りながら対応してきた。	80	なった区できるようにと考えすぎて指導が長くなることがあった。	
	子どもたちが、いつ、だれにでも適切な挨拶ができ自分の言葉で気持ちを表現することができるようにする。	誰にでも（職員だけではなく、お友達のお母さん、業者の方など）元気に挨拶をする。	正しく元気な声で挨拶をする。	年長	4	お友だち同士での挨拶の声がよく聞こえてきた。職員も手本を見せられるようにしてきた。	30	いつもの時間のいつもの挨拶はできるが以外のことがなかなかできない。	誰にでも元気に挨拶をする。（職員だけではなく、お友達のお母さん、業者の方など）
				年中	4	登園時は保育者やともだちにきちんと挨拶できていたが、時間・場所等その場に応じた挨拶が難しい。挨拶は、登園と降園のみと思いがち。	55	初めて会う人や業者の方に進んで挨拶をすることは難しかった。	
				年少	3		65	みんなと一緒にできるが一人ではできない子がいる。	
社会的自立	子どもたちが日常生活の中で自信を持って最後までやり遂げる自立心と生きる力を身につけることができる環境をつくる。	自分で考えて行動し、失敗を恐れずに最後までやり遂げる。	自分の気持ちを最後まであきらめずに伝える。	年長	3	3学期になって、自分の気持ちを素直に表現できるようになってきた。	20	次の行動を考えた行動ができない子、失敗を怖がりなかなか先に進めない子がいる。	失敗しても大丈夫という安心垂kンを持ち「もう一度やってみよう」という気持ちを育てる。
				年中	3	前向きな気持ちは一所懸命伝えようとするが、トラブルの原因や失敗は気持ちを表現することが難しい子もいる。	55	次の駆動を予想して準備したり、制作では工夫して行うことができるようになってきた。	
				年少	2	気持ちを表現できず最後まで伝える前に泣いたり、怒ったりしてしまった。また、伝えようとせず抑える子もいた。	65	失敗を恐れない子失敗をして不安がる子もいるが声掛けをすることでできることが多くなってきた。	
	子どもたちが、自然や環境、人々とのかかわりの中で、社会のマナーを知り身につけられるようにする。	社会のマナーを知り身につけられるようにする。	園外保育に出かける。	年長	3	マナーを身につけるための活動として、園外保育だけでは足りなかった。	60	感謝巡りなど年間カリキュラムはこなせたがもっと自由な活動があってもよかった。社会のルールに触れることが少ない。	社会のマナーと自然を大切にすることを身につける。
				年中	4	商店街に出かけ沢山の声掛けをしていただいて喜んで帰ってきた。まず地域を知ることから始めた事が良かった。	65	園外保育に出かける時交通ルールは守れるが道を譲るなど少しの心遣いが難しかった。	
				年少	3	1学期2学期にうまくできず、3学期に期待していたがコロナの影響で中止となってしまった。	60	雨天の予定日を釣ることが難しく予定をクリアできなかった。	

NOTE: 活動の評価の点数《5—とてもよくできた(目標達成のために大きな効果が見られた) 4—よくできた 3—できた 2—あまりよくできなかった 1—できなかった》目標の評価の点数は、達成度をパーセントであらわしてください。(100パーセント達成できた場合は100)

時々様子が知りたかったと思うことや、もう少し園での活動の様子が知りたいと思うこともあり、少し物足りなさを感じることもありましたが、また例年目標を掲げておられる挨拶に関しても園全体の向上というよりも、年齢による相応の成長というような気もします。しかしながら先生方の努力なくしてはその成長も見られなくなるはずがなく、年間を通して考えると子どもは成長しており、何よりも人を思いやれる優しい子に成長していると思うので、カトリック教育をさらに打ち出してほしいと思います。